病牀雑記

芥川龍之介

青空文庫

一、病中閑なるを幸ひ、諸雑誌の小説を十五篇ばかり読む。滝井君の「ゲテモノ」同君の作中にても一頭地を抜ける出来栄えなり。親父にも、倅にも、風景にも、朴にして雅を破らざること、もろこしの餅の如き味はひありと言ふべし。その手際の鮮かなるは恐らくは九月小説中の第一ならん乎。

二、里見君の「蚊遣り」も亦十月小説中の白眉なり。唯聊か末段に至つて落筆※の憾みあらん乎。他は人情的か何か知らねど、不相変巧手の名に背かずと言ふべし。

三、旅に病めることは珍らしからず。（今度も軽井沢の寒冷えを持ち越せるなり。）但し最も苦しかりしは丁度支那へ渡らんとせる前、下の関の宿屋に倒れし時ならん。この時も高が風邪なれど、東京、大阪、下の関と三度目のぶり返しなれば、存外熱も容易には下らず、おまけに手足にはピリン疹を生じたれば、女中などは少くとも梅毒患者位には思ひしなるべし。彼等の一人、僕を憐んで曰、「注射でもなすつたら、よろしうございませうに。」

東雲の煤ふる中や下の関

四、彼は昨日「小咄文学」を罵り、今日恬然として「コント文学」を作る。宜なるかな。彼の健康なるや。

五、小穴隆一、軽井沢の宿屋にて飯を食ふこと五椀の後女中の前に小皿を出し、「これに飯を少し」と言へば、佐佐木茂索、「まだ食ふ気か」と言ふ。「ううん、手紙の封をするのだ」と言へど、茂索、中中承知せず「あとでそつと食ふ気だらう」と言ふ。隆一、憮然として、「ぢや大和糊にするわ」と言へば、茂索、愈承知せず、「ははあ、糊でも舐める気だな。」

六、それから又玉突き場に遊びゐたるに、一人の年少紳士あり。僕等の仲間に入れてくれと言ふ。彼の僕等に対するや、未だ嘗「ます」と言ふ語尾を使はず、「そら、そこを厚く中てるんだ」などと命令すること屡なり。然れどもワン・ピイスを一着したる佐佐木夫人に対するや、慇懃に礼を施して曰、「あなたはソオシアル・ダンスをおやりですか？」佐佐木夫人の良人即ち佐佐木茂索、「あいつは一体何ものかね」と言へば、何度も玉に負けたる隆一、言下に正体を道破して曰、「小金をためた玉ボオイだらう。」

七、軽井沢に芭蕉の句碑あり。「馬をさへながむる雪のあしたかな」の句を刻す。これは甲子吟行中の句なれば、名古屋あたりの作なるべし。それを何ゆゑに刻したるにや。因に言ふ、追分には「吹き飛ばす石は浅間の野分かな」の句碑あるよし。

八、軽井沢の或骨董屋の英語、――「ジス・キリノ（桐の）・ボツクス・イズ・ベリイ・ナイス。」

九、室生犀星、碓氷山上よりつらなる妙義の崔嵬たるを望んで曰、「妙義山と言ふ山は生姜に似てゐるね。」

十、十項だけ書かんと思ひしも熱出でてペンを続けること能はず。

（大正十四年十月）

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行
1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
2007年6月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

病牀雑記

芥川龍之介

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/